

第4学年2組 国語科学習指導案

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅱ

平成30年2月9日(金) 公開授業Ⅰ

会場 2階-④ (B 4年国語)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 桑原浩二

1 単元名 2分の1成人の主張 — 将来の夢を伝え合おう —

2 本単元の価値

本単元は「題材の設定、情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」といった一連の「書くこと」の学習過程(以下、文章化過程)を重視したうえで、次に示す新学習指導要領の第3学年及び第4学年の指導事項イ、言語活動例アを受けて設定した。

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

本単元は、「書くこと」における「随筆」の系統として位置付けている。子どもは、学年末にある2分の1成人式に向け、将来について考えたことを書き表す。大きく次の二点の価値がある。

一点目は、自分の考えをもち、深めることができる点である。本単元のねらいは、将来の夢についての自分の考えとその理由とを明確にし、文章の構成を考えて記述することである。子どもにとって、自分の将来と真剣に向き合う学びの機会となる。将来の夢という自分の生き方に関する題材だからこそ書き表す意義がある。また、伝えたいことがおうちの方に伝わるかという視点で文章の構成を考えたり友達と検討し合ったりすることで、自分の考えを明確にもち、深めることができる。なお、新学習指導要領では、国語科のすべての領域において、自分の考えを形成する学習過程が重視され、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。つまり、将来の夢についての文章を書き表すことを通して、今求められている「考えの形成」を図ることができる。

二点目は、文章の構成について理解できる点である。国語科の改訂の趣旨及び要点には、全国学力・学習状況改善調査等の結果から、「文の構成を理解したり表現の工夫をとらえたりすることに課題がある」と指摘されている。子どもは、将来の夢についての考えを羅列するのではなく、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけとなった出来事」等の段落をつくることにより、それらの段落をどのような順序で並べるかという文章の構成について理解することができる。

3 目指す姿

文章化過程の往還を通して、意図をもって文章を構成する子ども

具体的には、「言葉による見方・考え方」を働かせ、文章を構成する力などを発揮して文章化過程を往還しながら段落の配列を考え、「『自分の考え』『考えの理由』『考えるきっかけになった出来事』の順番に付箋紙を並べて、文章を構成しました。『自分の考え』を始めにもってきた理由は、将来の夢が外科医だということを最初の段落にすることで、おうちの方にどのような夢なのかを分かりやすく伝えられると思ったからです」などと、意図をもって文章を構成する姿。

4 働かせる「見方・考え方」

「言葉による見方・考え方」

具体的には、おうちの方と自分の文章との関係を段落の配列に着目してとらえたり問い直したりすること

5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

6 指導の構想

子どもは、学年末におうちの方を迎えて行う二分の一成人式に向けて、様々な活動に取り組んでいる。二分の一成人式では、将来の夢を発表し合う場を設定している。そこで、本単元では、二分の一成人式で語り合う将来の夢についての文章を書き表す。おうちの方に将来の夢を伝えるという書く相手と書く目的とを明確にして、子どもが自分の思いや考えを深められる学習である。

まず、単元の導入として、「将来の夢についての考えをおうちの方に書いて伝えよう」と言語活動を提示する。しかし、将来就きたい具体的な職業を決めている子どももいれば、将来の夢がまだ明確になっていない子どももいる。そこで、自分の考えをもたせやすくするために、一週間の取材期間を設定する。一人に十枚程度の付箋紙を配付し、将来の夢について考えたことや図書で調べたことなどを付箋紙に記述させる。その際、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」等のまとまりで書くように指示する。これは、付箋紙を用いて文章の構成を考えられるようにするためである。子どもは、取材期間を通して将来の夢についての考えをもつ。

次に、収集した付箋紙の並べ方を問う。子どもは、これまでの学習経験からタブレット端末に付箋紙を取り込めるアプリ(以下、Post-it Plus)を使って文章の構成を考える。しかし、この

段階の文章の構成には明確な意図が見られず、段落と段落とのつながりが強く意識されていない。そして、文章を記述させる。子どもは、文章を作成するアプリ（以下、Word）を使い、第一段階の文章を記述する。文章化過程における一回目の「考えの形成、記述」まで終えたことになる。

働き掛け1

文章を読み合う場を設定し、伝えたいことと文章の構成とが合致しているかを問い、ペアで相互評価をさせる。

問いをもたせ、学習課題を設定させるための働き掛けである。

まず、様々な文章の構成をとらえさせるために、文章を読み合う場を設定する。子どもは、タブレット端末上で共有されている全員の文章を読むことで、文章の構成に目を向けるようになる。

次に、伝えたいことと文章の構成とが合致しているかを問い、ペアで相互評価させる。これは、「言葉による見方・考え方」を引き出すためである。子どもは、読み手の立場となり、段落の配列に着目して助言し合う。友達から評価をもらった子どもは、自分の文章の内容及び構成において再考すべき点を見付ける。段落の配列に着目することで、将来に対する自分の考えがおうちの方に伝わる文章かをとらえ始める。そして、子どもは、思いや考えを伝えようとする態度（**国語科③**）を発揮して、「文章の構成を考え直したい」と願いをもつ。これを問いをもった姿とする。

その後、考えていきたいことを問う。子どもは、「どのように文章を構成するか」などと、全体で学習課題を設定する。これで文章化過程における一回目の「共有」まで終えたことになる。

働き掛け2

教材文を提示し、自分の文章に必要な課題解決の方策を問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

学習課題を設定した子どもに、教材文を二つ提示する。一つが第一段階の文章、もう一つが再取材及び再構成を施して第一段階の文章を書き替えた文章である。子どもは、言葉の特徴や使い方に関する知識・技能（**国語科①**）を発揮して、図書やインタビュー等から不足の情報を補ったりPost-it Plusを使って段落の配列を替えたりすることで、よりよい文章となることに気付く。

このような子どもに、自分の文章に必要な課題解決の方策を問う。これは、「言葉による見方・考え方」を明確化するためである。子どもは、段落の配列に着目して、おうちの方と自分の文章との関係をとらえたり問い直したりして、二つの教材文から得た気付きから、課題解決の方策として再取材や再構成を挙げる。このように、子どもは、不足の情報を再取材で補い、段落の配列を再構成で替えれば、おうちの方に自分の考えが伝わる文章になると課題解決の見通しをもつ。

働き掛け3

収集した付箋紙をどのように並べ直すかを問い、複数の文章の構成を提案させる。

様々な情報を整理させ、複数の文章の構成を考えさせるための働き掛けである。

課題解決の見通しをもった子どもは、図書やインタビュー、アンケートなどから補った情報を付箋紙に書き出す。このような再取材を行った子どもに、収集した付箋紙をどのように並べ直すかを問う。すると、子どもは、Post-it Plusを使い（**ツール活用能力**）、文章を構成する力（**国語科②**）を発揮して、付箋紙を並べ直す。Post-it Plusを活用することにより、複数の付箋紙を比較したり関連付けたりすることができるため、文章の構成が考えやすくなる。ゆえに子どもは、文章の構成を複数考え出すようになる。これで二回目の「構成の検討」まで終えたことになる。

その後、子どもが考え出した複数の文章の構成をペアの友達に提案させる。子どもは、なぜそのような文章の構成を考えたのかという意図を友達に説明する。それを聞いた友達は、伝えたいことがおうちの方に伝わる文章の構成かという視点で、助言したり評価したりする（**協働性**）。

働き掛け4

文章の構成を最終決定させ、判断した理由を問う。

意図をもって文章を構成させるための働き掛けである。

文章の構成を決めつつある子どもに、最終的な文章の構成を決めるように指示をする。子どもは、文章を構成する力（**国語科②**）を発揮して、一つに決定する。ここで、最終的に判断した理由を問う。子どもは、「将来の夢が外科医だということを始めの段落にすることで、おうちの方にどのような夢なのかを分かりやすく伝えられると思ったから」などと、構成の意図を表出する。

このようにして、文章化過程の往還を通して、意図をもって文章を構成する子どもになる。

働き掛け5

文章を記述させ、これから文章を記述していく際に考えていきたいことを問う。

学習を振り返らせ、発揮した様々な資質・能力の自覚をさせるための働き掛けである。

最終的な文章の構成を決定できた子どもに、Wordで第二段階の文章を記述させる。これで文章化過程における二回目の「考えの形成、記述」まで終えたことになる（**国語科①**）。このような子どもに、これから文章を記述していく際に考えていきたいことを問う。すると、子どもは、「伝えたいことをはっきりさせて相手に合わせて文章を構成すること」（**国語科②**）、「段落の並べ方を考えて文章を書いていくこと」（**国語科③**）などと、発揮した様々な資質・能力を自覚する。

7 指導計画 全7時間

別紙、「指導計画」参照

8 本時の構想<第1日目> 5/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい

図書やインタビュー、アンケートなどから補った情報を付箋紙に書き出し、Post-it Plusを使い、文章を構成する力を発揮して、2つ以上の文章の構成を考えることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 本時の学習を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習は、集めた付箋紙をPost-it Plusで再構成する学習をするのだったな。 この前の学習でさらに付箋紙を集めることができたから、今日は再構成をしてみよう。 私は、第一段階の文章を「すぐ型(頭括型)」で書いてみたけれど、Post-it Plusを使って、「ひきつけ型(尾括型)」で構成し直してみようかな。 	<p>○説明「この前の国語の時間では、必要な情報を取材し直したりPost-it Plusを使って文章の構成を考え直したりすれば、将来の夢がおうちの方に伝わる文章が書けそうだと考えましたね。そして、様々なやり方で再取材ができました。皆さん、付箋紙がさらにたくさん集まりましたね」</p> <p>※ 前時のふり返りを共有し、どのように学習を進めていきたいのかを確認する。</p>
<p>2 どのように付箋紙を並び替えたらいいか見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> おうちの方に伝わるかどうかを考えて、付箋紙を並び替えます。 自分たちの将来の夢がおうちの方に伝わるかということを考えながら文章を構成することが大切です。 「すぐ型」や「ひきつけ型」など、どのように文章の構成を考えると、おうちの方に伝わるかということです。 <p>・ぼくは、第一段階の文章を「すぐ型」で書いてみました。しかし、「ひきつけ型」で文章を構成してみた方がおうちの方に伝わるのではないかと思いました。だから、今日の学習では、「ひきつけ型」で文章を構成していこうと考えています。</p> <p>・私は、「すぐ型」で文章を構成していこうと思っています。第一段階の文章も「すぐ型」で書きました。おうちの方に伝わるかどうか、同じ「すぐ型」でも段落の並べ方をさらに替えてみようと思っています。</p> <p>・私は、「ひきつけ型」と「ダブルドッカーン型」で文章を構成していこうと考えています。いろいろな文章の構成を考えてみて、その中で、おうちの方に分かってもらえそうな文章の構成に決めたいと思います。</p> <p>・文章の構成を考えるときには、これまでの学習と同じように、Post-it Plusを使います。Post-it Plusを使うと、文章の構成が考えやすくなります。だから、「すぐ型」「ひきつけ型」など、様々な文章の構成を考えることができます。</p> <p style="text-align: right;">☆国語科① ☆ツール活用能力</p>	<p>○発問「これから文章を構成するときに、考えていくことはどんなことですか」</p> <p>※ 挙手を求め、子どもの発言を整理・分類して学習課題を立て、板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 将来の夢をおうちの方に伝えるためにはどのように文章を構成するか。</p> </div> <p>※ おうちの方からのアンケート結果を大型モニターに映し出して紹介する。</p> <p>○発問「どのように再構成をしていこうかとすでに考えている人はいますか」</p> <p>※ 挙手を求め、子どもの発言を整理・分類して板書する。</p> <p>※ 補助発問「文章の構成を何型から何型に替えようと思っていますか」「他に何型で文章を構成しようと考えていますか」</p> <p>【既習事項】子どもが名付けた文章の構成</p> <p>①「すぐ型」：頭括型 →「自分の考え」を始めにもってくることで、読み手に伝えたいことをすぐに伝えることができる。</p> <p>②「ひきつけ型」：尾括型 →「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってくることで、読み手に伝えたいことをひきつけて伝えることができる。</p> <p>③「ダブルドッカーン型」：双括型 →「自分の考え」を始めと終わりにもってくることで、読み手に伝えたいことを強調して伝えることができる。</p> <p>※ どうしてそのような文章の構成にするのか、理由が不明確な場合は、問い返す。</p> <p>※ Post-it Plusに関する発言があった場合には、Post-it Plusを使うことのよさを問い返し、全体で共有を図る。</p>

3 収集した付箋紙を並び替え、複数の文章の構成を考える。

- ・ぼくは、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」「自分の考え」の順番で付箋紙を並べてみようかな。
- ・私は、「自分の考え」「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の「ダブルドッカーン型」の順番で付箋紙を並べてみよう。
- ・ぼくは、「外科医になりたい」という将来の夢を伝えるために「自分の考え」「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」の順番の「すぐ型」で付箋紙を並べます。
- ・「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の順番に付箋紙を並べると、私の「パティシエになりたい」という将来の夢が伝えられそうです。

☆国語科②☆ツール活用能力

- ・私は、「すぐ型」「ひきつけ型」「ダブルドッカーン型」の三つの構成を考えました。どの構成もおうちの方に伝わりそうだから迷っています。
- ・由香さんが看護師になろうと思った理由がよく分からなかったから、教えてほしいです。理由があるなら、段落として入れた方が分かりやすいと思います。
- ・ぼくは、「すぐ型」で二つ、「ひきつけ型」で一つ、全部で三つの構成を考えました。Post-it Plusで付箋紙をあれこれ動かして考えてみるうちに、「すぐ型」で二つ考えられました。この中のどれかの構成で「税理士になりたい」という将来の夢がおうちの方に伝わる文章を書きたいです。
- ・陽一郎さんが、水泳でオリンピックに出場したいという気持ちはよく分かりました。水泳を習い始めたきっかけを詳しく知りたいです。段落に入れてみたらどうですか。
- ・私は、「ひきつけ型」で三つの文章の構成を考えました。「すぐ型」よりも「ひきつけ型」の方が「イルカの調教師になりたい」という将来の夢がおうちの方に伝わりそうだと思います。「イルカの調教師になりたい」とすぐに伝えると、ありきたりで、他の人と同じになってしまうからです。
- ・彩和さんは、書き出しに何か工夫をしていますか？会話文から始めてみるのもいいかと思っています。

4 本時の学習を振り返る。

- ・「すぐ型」で文章を構成するとよさそうだと考えていたけど、Post-it Plusで付箋紙を動かしてみることで、「ひきつけ型」で文章を構成した方がおうちの方が感動しそうな文章を書けそうだと思います。
- ・明日の国語の時間では、今日考えた「すぐ型」「ひきつけ型」「ダブルドッカーン型」の中から一つを選んで、文章を書いていきたいです。おうちの方によく伝わるのがどの構成なのかを考えていきたいです。

○発問「集めた付箋紙をどのように並べ直しますか」 【働き掛け3-①】

○指示「Post-it Plusを使って文章の構成を考え直してみましょう」

- ※ 一人に一台のタブレット端末を机上に用意させておく。
- ※ ペアや班で話し合いながら進めてもよいこととする。ペア以外の友達と相談することも認める。
- ※ 付箋紙を並び替えるだけではなく、必要な付箋紙を加えたり unnecessary 付箋紙を削ったりしてもよいこととする。
- ※ 模範的な再構成をしている子どもを採り上げ、大型モニターに映し出し、全体で共有を図る。

○指示「自分が考えた文章の構成を発表しましょう」

- ※ 挙手を求め、子どもの発言を整理・分類して板書する。
- ※ 子どものPost-it Plusの画像を大型モニターに映し出して発表させる。

○指示「発表を聞いて、発表者にもっと詳しく聞きたいことなどはありますか」

- ※ 発表者に対する質問や確認、共感的な助言を求め、子どもの発言を整理・分類して板書する。

○指示「今日の学習で、学んだことや考えたこと、次の時間に考えていきたいことをロイロノートにまとめて、提出箱に送信しましょう」

- ※ プレゼンテーションをつくるアプリ、ロイロノートで、本時の振り返りをまとめさせる。大型モニターで共有する。
- ※ 時間があればいくつかの子どもを採り上げ、子どもの振り返りを大型モニターに映し出して、全体の前で発表させる。

(3) 評価

Post-it Plusを用いて付箋紙を並び替えることを通して、2つ以上の文章の構成を考えることができたか（発言、Post-it Plus、ロイロノート）。

8 本時の構想<第2日目> 6/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい

ペアでの検討から最終的に文章の構成を一つに決定することを通して、文章を構成した意図を明確に書き表すことができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 本時の学習を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日の学習で私は、「すぐ型」で二つ、「ひきつけ型」で一つ、全部で三つの文章の構成を考えました。今日は、その中から一つに決めよう。どれにしようか迷うな。 ・ぼくは、「ひきつけ型」で二つ、「ダブルドッカーン型」で一つ、全部で三つの文章の構成の中から一つを決めるよ。構成を決めて、早く文章を書いていきたいな。 ・どの構成にすれば、おうちの方を感動させられるような文章が書けるのだろう。よく考えて決めていこう。 	<p>○説明「昨日は、Post-it Plusを使って、文章の構成を考えましたね。ふり返りをロイロノートで確認してみます」</p> <p>※ ロイロノートを大型モニターに映し出して、前時のふり返りを共有する。</p> <p>○学習課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題 おうちの人に自分の将来の夢を伝えるためには、どのような構成にすればよいか。</p> </div>
<p>2 収集した付箋紙を並び替え、複数の文章の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、「自分の考え」「考えの理由」「考えるきっかけになった出来事」「自分の考え」の順番で付箋紙を並べてみようかな。 ・私は、「自分の考え」「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の「ダブルドッカーン型」の順番で付箋紙を並べてみよう。 ・ぼくは、「外科医になりたい」という将来の夢を伝えるために「自分の考え」「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」の順番の「すぐ型」で付箋紙を並べます。 ・「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の順番に付箋紙を並べると、私の「パティシエになりたい」という将来の夢が伝えられそうです。 	<p>○発問「集めた付箋紙をどのように並べ直しますか」 【働き掛け3-①】</p> <p>○指示「Post-it Plusを使って文章の構成を考え直してみよう」</p> <p>※ 一人に一台のタブレット端末を机上に用意させておく。</p> <p>※ 付箋紙を並び替えるだけではなく、必要な付箋紙を加えたり unnecessary 付箋紙を削ったりしてもよいこととする。</p> <p>※ 模範的な再構成をしている子どもを採り上げ、大型モニターに映し出して、全体で共有を図る。</p> <p>※ ペア以外の友達との相談も認める。</p>
<p>3 複数の文章の構成をペアの友達に提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「すぐ型」「ひきつけ型」「ダブルドッカーン型」の三つの文章の構成を考えました。この中で、「ひきつけ型」の構成がおうちの方に一番よく伝わると思います。なぜなら、私が将来なりたい美容師は、よく知られている職業だから、始めにもってくると、二分の一成人式でおうちの方に興味をもって聞いてもらえないと思ったからです。 ・香澄さんは、「ひきつけ型」の構成がよいと思っているようだけど、「すぐ型」か「ダブルドッカーン型」の構成にした方がおうちの方がよく分かるんじゃない。だって、「管理栄養士になりたい」という香澄さんの将来の夢は、あまりみんなが知らない職業だと思うから、始めに伝えた方がよいと思うよ。 ・佳輝さんの「考えの理由」には、図書で調べたことが書いてあるけど、これは、どの図書からの情報なのかがよく分からないから、きちんと載せた方がいいよ。 <p style="text-align: right;">☆協働性</p>	<p>○指示「ペアの友達に自分が考えた文章の構成を提案しましょう。将来の夢がおうちの方に伝わる構成になっているか、アドバイス合いましょう」 【働き掛け3-②】</p> <p>※ いくつかのペアを採り上げ、提案について全体で共有したり議論したりする。</p>

4 文章の構成を最終的に決定する。

- 『自分の考え』『考えの理由』『考えるきっかけになった出来事』の順番に付箋紙を並べて、文章を構成しました。『自分の考え』を始めにもってきた理由は、将来の夢が外科医だということを始めの段落にすることで、おうちの方にどのような夢なのかを分かりやすく伝えられると思ったからです。
- 私は、「インテリアコーディネーターになりたい」という将来の夢を伝えるために「考えるきっかけになった出来事」「考えの理由」「自分の考え」の順番に付箋紙を並べて、文章の構成を考えました。「考えるきっかけになった出来事」を始めにもってきた理由は、なろうと思ったきっかけが他の人と少し変わっているので、始めの段落にもってくることで、おうちの方をひきつけて伝えることができると思ったからです。

★国語科②

5 最終的に決定した文章の構成で第二段階の文章を記述する。

- 皆さんには、どのような夢がありますか。ぼくの将来の夢は、外科医になることです。これから、多くの外科医になりたいという夢を伝えます。
外科医を目指そうと思った理由は、二つあります。一つ目は、人の役に立つからです。くらしの医学（2016附属社）によると、一般的な外科医は、年間で六十～七十のオペを行うとありました。つまり、それだけの方々の命を救えるということです。とても大変で、ときには落ち込んでしまうこともあるかもしれませんが、その分やりがいがあると思います。
二つ目は、研究ができるからです。外科医の仕事は、患者さんのオペをすることだけではありません。医学的な研究を積むことも仕事の一つです。現代の医療（2017附属社）によると、一般的な外科医は、年間5本の論文を学会に提出しているそうです。ぼくは、小さなころから不思議に思うことをよく調べていました。だから、医学的な研究を続けることができる外科医は、ぼくにぴったりの職業だと思っています。
ぼくが外科医を目指そうと思ったきっかけは、父の存在です。ぼくの父は、外科医で、日本だけでなく、欧米を飛び回ってたくさん命を救っています。そのような父は、ぼくの憧れです。ぼくも父のような外科医になりたいです。
しかし、今のままでは外科医になれません。十歳のハローワーク（2018附属社）によると、外科医になるまでには、高校卒業後、最低十年はかかるそうです。大学四年、大学院四年、研修生二年です。だから、ぼくは、もっとたくさん勉強して、外科医の夢がかなうように努力していかなくてはなりません。
将来、外科医になるために、今、ぼくがすることは、一つのことを続ける努力です。気になったことを調べる学習を続けていけば、必ず外科医になれると信じています。

★国語科①★ツール活用能力

○発問「最終的にどのような順番で付箋紙を並べますか、それはどうしてですか」 【働き掛け4】

- 指示「ロイロノートにまとめてみましょう」
- ※ 段落の並べ方及び決定した理由をまとめさせる。提出箱に送信させる。
- 指示「最終的に決めた文章の構成とその理由とを発表しましょう」
- ※ 挙手を求め、子どもの発言を整理・分類して板書する。
- ※ 子どものロイロノートを大型モニターに映し出して、全体の前で発表させる。
- ※ 子どもの発言及びロイロノートの記述から学習のまとめを板書する。

学習のまとめ
書き手の伝えたいことが読み手によく分かってもらえる構成にする。

- 指示「それでは、最終的に決めた文章の構成で、第二段階の文章を書いていきましょう」
- ※ 文章を作成するためのアプリであるWordを活用させる。
- ※ 子どもが文章を記述している様子を大型モニターに映し出す。
- ※ この時間内では、すべて記述することができないため、続きは次時とする。

(3) 評価

ペアの友達からの助言を基に最終的に文章の構成の一つに決め、文章を構成した意図を明確に書き表すことができたか（発言、Post-it Plus、ロイロノート）。